

03

新カリキュラム ―「教養総合講座」

教養総合講座運営委員会

幅広い教養を備えた医療人の育成、これは本学が掲げる理念の一つです。教養とは、この多様な社会を構成する一員として、自己とは異なる他者と共存していくための知性と言い換えることができるでしょう。教養部では、そのような異質な他者との共存を可能にする知性を養うこと、これが自らの担うべき役割の一つと考え、様々な取り組みを行っています。その一つが、本年度より開始された「教養総合講座」です。これは、学生たちを15人前後の学科混成のグループに分け、共通の大きなテーマについてグループごとに調査や討論を行う「基礎ゼミ」を主軸におくものです。それに、「文章表現リテラシー」および「情報リテラシー」の2つのリテラシー教育を加えることによって、「基礎ゼミ」の基盤固めを行う、三位一体型のプログラムです。

今年度は、「自然環境と人間社会」というテーマに対して、学生達は、人文社会科学と自然科学それぞれの視点から問題を設定し、調査・討論・考察を経て、最終的にはそれらが融合した結論を導きだす作業に取り組みました。9月27日には、その成果を「基礎ゼミ発表会」で披露し合い、そこでも活発な討議が行われました。

■教養総合講座(2011年度)

日程		ABC班	DEF班	GHI班	JKL班	MNO班	PQR班
1回目 (5/17) 【湯島】	4限	オリエンテーション					
		全体講義「自然環境と人間社会」：自然科学系(井口泰泉先生)					
	5限	全体講義「自然環境と人間社会」：人文社会系(加藤尚武先生)					
		ネットワークセキュリティ					
2回目 (5/24)	4限	テーマ①設定【人文社会科学系】			テーマ①設定【自然科学系】		
	5限	文章表現Ⅰ	情報の検索	基礎ゼミ①-1		基礎ゼミ①-1	
3回目 (5/31)	4限	基礎ゼミ①-1		文章表現Ⅰ	情報の検索	基礎ゼミ①-2	
	5限	基礎ゼミ①-2		基礎ゼミ①-2		文章表現Ⅰ	情報の検索
4回目 (6/7)	4限	情報の検索	文章表現Ⅰ	基礎ゼミ①-3		基礎ゼミ①-3	
	5限	基礎ゼミ①-3		情報の検索	文章表現Ⅰ	基礎ゼミ①-4	
5回目 (6/14)	4限	基礎ゼミ①-4		基礎ゼミ①-4		情報の検索	文章表現Ⅰ
	5限	文章表現Ⅱ	情報の選択	基礎ゼミ①-5		基礎ゼミ①-5	
6回目 (6/21)	4限	基礎ゼミ①-5		文章表現Ⅱ	情報の選択	基礎ゼミ①-6まとめ	
	5限	基礎ゼミ①-6(まとめ)		基礎ゼミ①-6(まとめ)		文章表現Ⅱ	情報の選択
7回目 (6/28)	4限	テーマ②設定【自然科学系】			テーマ②設定【人文社会科学系】		
	5限	情報の選択	文章表現Ⅱ	基礎ゼミ②-1		基礎ゼミ②-1	
8回目 (7/5)	4限	基礎ゼミ②-1		情報の選択	文章表現Ⅱ	基礎ゼミ②-2	
	5限	基礎ゼミ②-2		基礎ゼミ②-2		情報の選択	文章表現Ⅱ
9回目 (7/12)	4限	文章表現Ⅲ	情報の提示	基礎ゼミ②-3		基礎ゼミ②-3	
	5限	基礎ゼミ②-3		文章表現Ⅲ	情報の提示	基礎ゼミ②-4	
10回目 (7/19)	4限	基礎ゼミ②-4		基礎ゼミ②-4		文章表現Ⅲ	情報の提示
	5限	情報の提示	文章表現Ⅲ	基礎ゼミ②-5		基礎ゼミ②-5	
11回目 (7/26)	4限	基礎ゼミ②-5		情報の提示	文章表現Ⅲ	基礎ゼミ②-6(まとめ)	
	5限	基礎ゼミ②-6(まとめ)		基礎ゼミ②-6(まとめ)		情報の提示	文章表現Ⅲ
		夏季休業(レポート作成)					
12回目 (9/20)	4限	基礎ゼミ：テーマ①+②		基礎ゼミ：テーマ①+②		基礎ゼミ：テーマ①+②	
	5限	まとめ+プレゼン準備		まとめ+プレゼン準備		まとめ+プレゼン準備	
13回目 (9/27)	4限	基礎ゼミ：発表会		基礎ゼミ：発表会		基礎ゼミ：発表会	
	5限						

おおよそ4カ月におよぶ取り組みの中で、最初は受け身な傾向にあった学生達も、徐々に自ら問題を提起し、資料を収集し、情報を発信しあうようになりました。原発問題に取り組んだK班・医学科・中村皓平君の、「初めは集団での作業ができませんでした、徐々に班としてまとまりが出て、発表を行うことができました。共同で調査や作業をする機会はめったになく、個人作業に慣れてしまいがちなこの時期に、このような体験ができたことは大変有意義でした」との感想に見られるように、異なる他者と意思疎通をすることの難しさと大切さを感じ取ったようです。

これまで、唯一の「答え」に、誰よりも早くたどりつくことを要求されてきた学生達。でも、学問の本当の面白さはそんなところにはありません。異なる他者による異なる観点からの反証によって、科学は発展していきます。そのダイナミズムこそが学問の本当の面白さです。つまり、学問が学問として機動するには、「他者」が必要なのです。

学生達にはそのような学問の持つ躍動感を味わって欲しい。そして、自らも他者として他者と共に生きる、知性あふれる医療人に成長して欲しい、そう期待しています。



活発な質疑応答が行われた

02

第3回国際サマープログラムを開催

森尾郁子

国際交流センター長

8月28日～31日の4日間、第3回の国際サマープログラムを、M&Dタワー内の会場を中心に本学内で開催しました。テーマは「臓器／組織の発生と再生―その基礎と臨床応用」。3月の東日本大震災とその後の節電対策により、運営面での配慮が必要でしたが、田賀哲也教授を座長としたISP2011ワーキンググループの各委員ならびに学内外の講師の先生方のご協力のもとに、無事に実施することができました。

本プログラムは、アジアの14カ国から招聘した23人の学生・若手研究者を対象に、講義、キャンパスツアー、研究室訪問および交流会を実施しま

した。最終日の8月31日には本学の学生・教職員や学外研究者も参加できる国際シンポジウムを開催いたしました。

本プログラムは本学を広く世界にアピールするとともに、優秀な外国人留学生を確保することを目的としております。今回から招聘学生が希望する研究分野の研究室を訪問するための時間を増やしました。夏季期間中にもかかわらず学内の先生方には熱心に訪問学生に対応していただきました。来年度以降、さらに招聘参加者と本学教員・学生とのより密度の高い相互交流が可能となるプログラム作りに努めたいと思います。



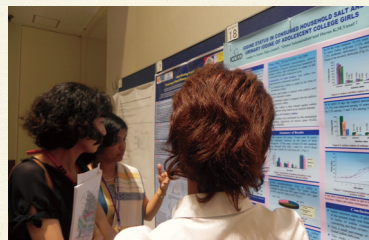
講義室での井関教授。TV会議を利用し、チュラロンコン大学へ中継を行った



最終日に行われたシンポジウムにて講演するイアン・ウィルマット教授



研究室訪問の様子。鳥山教授の説明を熱心に聞くISP参加者



ポスターセッションにて、ISP参加者の発表に耳を傾ける西村教授と本学留学生



交流会での集合写真(M&Dタワー26F)

01

サバティカル制度による
北欧3カ国での研究の報告

佐々木明子

大学院保健衛生学研究科
地域保健看護学分野 教授

本学で新たに開始されたサバティカル制度を2011年6月27日から2カ月間利用し、北欧のデンマーク、スウェーデン、フィンランドと日本国内で高齢者の予防訪問の効果に関する研究を行いました。

わが国では介護保険制度を見直し、予防重視型の活動を展開しており、介護予防が必要な高齢者の把握と支援を充実することが早急な課題です。予防活動を充実するため、北欧のデンマークでは、75歳以上の高齢者全数への予防訪問が法律で定められています。また、フィンランドやスウェーデンでも、高齢者全数への予防訪問を積極的に行っています。

そこで、今回北欧3カ国において、本学の協定大学のフィンランドのセイナヨキ応用科学大学をはじめとする各国の研究者との研究討議、自治体の管理者、地域看護職者、高齢者施設職員等と高齢者自身に予防訪問の効果について調査を実施しました。

高齢者全数への予防訪問は、健康状態や生活上の課題を早期に把握し、高齢者の心身の健康維持・増進、介護予防に寄与する活動であり、高齢者の満足度も高い活動でした。このような有用性のある高齢者全数への予防訪問をわが国でもさらに推進していくために、研究成果を役立てていきたいと思っています。



セイナヨキ応用科学大学の国際部長らとともに

